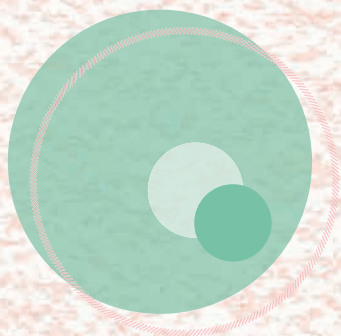
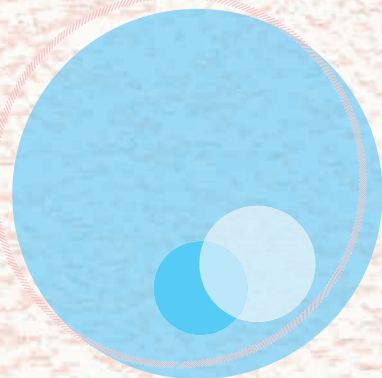


特集 | 石岡市の子育て支援

このまちで あなたに出会えて良かった！



人口減少時代と言われる昨今、一人の女性が一生の間に

出産する子どもの数（合計特殊出生率）は1.26人（※1）であり、調査が始まった昭和22年以降で最少となっています。

石岡市で令和4年次に生まれた子どもの数は367人（※2）と近年、減少の一途をたどっており、人口減少は当市とも無関係な問題ではありません。

このような状況下で、子どもを取り巻く環境は急激に変化しており、子育てに戸惑いを覚える保護者は少なくありません。

当市では、パパ・ママをはじめとした保護者の皆さんの不安を払拭し、安心して子育てに臨めるサポート体制の整備が進められています。

今月号の特集では、実際に当市で子育てをしている保護者の皆さんの声をご紹介しますとともに、現場で子育てのサポートに携わる職員の取り組みを取り上げました。

（※1）（厚生労働省「令和4年（2022）人口動態統計月報年計（概数）の概況」）

（※2）「統計いしおか（令和5年度版）」



▲（後列左より）小野瀬直樹さん・香央里さん
（前列左より）紫ちゃん・葵ちゃん

石岡市での子育て

パパ

ママ

のキモチ

小野瀬 直樹さん
香央里さん
紫ちゃん（6歳）
葵ちゃん（4歳）

▼小野瀬香央里さんは、夫である直樹さんとともに紫ちゃん（6歳）と葵ちゃん（4歳）を育てています。

（以下）小：小野瀬さん 間：聞き手
間：これまでの子育てで大変だったことはありますか？

小：産前・産後は様々な体調不良で苦しみました。長女の紫は発育が遅く、出生から2カ月間、入院していたのですが、母乳を入院先まで届ける際に、パパ（直樹さん）の両親が送迎してくれました。子育てにおいては、義父・



▲紫ちゃん・葵ちゃん

義母のサポートがとても有り難かったです。また、保健師さんの訪問は、その場で質問ができて助かりました。

間：子どもを取り巻く環境のことで戸惑ったことはありますか？

小：長男の葵は令和元年生まれですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、子育て支援センターの催しが中止になるなど、保育園に入園するまで、同世代の子と遊ぶ機会がほとんどありませんでした。このことが発達に影響するのではないかと不安がありましたが、現在は元気に保育園に通っており、ホッとしています。

紫と葵は2歳差ですが、この間に出産ができる病院が減少するなど、子育てを取り巻く環境は変わったように思います。

間：家事は誰が担当していますか？

小：わが家では、パパが料理をすることもあり、家事は主に私と2人で分担しています。パパは「家族の一員として、目についたことはやる」という意識で家事に取り組んでいます。家事も子育てもママひとりではなく、みんなで協力できる体制があるといいですね。

辛いときママが休める環境があれば

親子の関係はもっと良くなる

子どもはとても可愛いですが、ママと子どもだけの「密」な時間が長すぎると、ママは疲弊して孤独を感じてしまうことも…。テレビで報道される痛ましい事件も、決して他人事とは思えないことがあります。もう少し、気軽に子どもを預けられる機会などがあるといいと思います。



ママ
小野瀬
香央里さん

▲姪である
吟羽ちゃんと一緒に

石岡市での子育て

祖母のキモチ

倉田 幸子さん
あずささん
花梨ちゃん（8歳）
福ちゃん（2歳）



▲（左より）倉田幸子さん・福ちゃん・あずささん



▲（左より）福ちゃん・花梨ちゃん

▼倉田幸子さんは次女・あずささんが働いているため、孫である花梨ちゃん（8歳）と福ちゃん（2歳）の面倒をしています。（以下）倉：倉田さん 問：聞き手
問：倉田さんが子育てをしていたころと、孫である福ちゃんを育てている現在で、変化したことはありますか？
倉：たくさんあります。私が子どもを育てていたころは、働く女性が少ない、子どもが熱を出しても休みづらい雰囲気がありました。

現在は働く女性の数が増え、産休・育休の制度が整備されるなど働く女性への理解が深まりつつあるように感じます。

しかし、その一方で、隣近所との付き合いが希薄になり、困ったときに相談できる人がいないことは大変だと思います。

特に子どもが体調を崩したときなどに、不安で病院に連れていく親が増えたように感じます。
問：子どもを育てるうえで便利だったものはありますか？

倉：子どもが参加できる公民館講座や親子教室などはよく利用しました。放課後や長期休暇中に子どもの居場所があることは有り難かったですね。

娘（あずささん）は、保育の費用負担を軽減する制度が有り難いと話しています。

問：安心して子育てができる環境をつくるためにはどのようなことが必要だと思いますか？

倉：子育ては一人で頑張るものではないと思います。家族や地域の人などが協力することが必要です。特に女性が働きながら子育てするのは大変なことです。困ったときに相談できる人がいることが必要だと思います。

子育ては一人で抱え込まない環境が必要

私が看護師として働いていたころ、母や義母が娘の面倒を見てくれました。母や義母は、よく地域の活動（婦人会など）に娘を連れて行ってくれました。娘たちも様々な知識を身に付けることができ、家族以外の幅広い年代の人と交流する機会があったことは、子どもの教育に良かったと思います。



祖母
倉田幸子さん

産前

産後

をサポート

子育て応援課
保健師



令和6年度に開設したこども家庭センターでは、従来の妊娠・出産・子育て期に関する支援に加え、これまで以上に多職種と連携しながら、子どもと家庭に関する相談に対応しています。

近年は核家族で生活している家庭も増え、妊娠・出産・育児についてSNSなどの情報を頼りに、一人で不安を抱えている方が多いように感じます。

体調を崩すタイミングは人それぞれですが、環境が大きく変わるときや心身ともに休息が取れていないときには、特に注意が必要です。産後のママはホルモンバランスが変動しやすいうえに、新しく家族が増えたことで、毎日忙しくて、自分の変化に気が付きにくいことがあります。涙があふれてくる、眠れない、笑顔が減ったといったことがないか、一番身近な家族の皆さんが気に掛けてあげてください。

子育て中のママが心身の健康を保つために大切なことは「一人で頑張るすぎないこと」です。頑張るすぎの前に、まずは家族とよく話し合うこと、それと家族以外に相談できる場所や人が存在すると心強いと思います。

こども家庭センターには様々な専門職のスタッフがおり、子育て中のママと一緒に寄り添います。気軽に相談ください。

これから出産される方については、妊娠届の提出後に、一緒に産後までの計画を立てたり、子育て支援制度の説明をしたりします。で、必ず面談にお越しください。

抱っこ練習など、きますので、初産の方にはぜひおすすめ。



▲パパ・ママスクール

また、出産前から夫婦で今後のライフワークバランスを具体的に話し合っておくと、心の準備ができて良いと思います。

つながる

子育て支援の輪

子育て応援課
社会福祉士



私たちは、子育てに関する相談業務や、様々な関係機関と連携し、子育て支援の社会資源やサービスの情報を提供し、支援をする業務を担当しています。

最近では、子どもとの関わり方や発達に関する相談、金銭面での不安についての相談が多い傾向にあります。特に、周囲に頼れる親族などがない、頼ることが難しいという方が多いです。

近年、虐待やネグレクトといった痛ましい事件がテレビなどで報道されていますが、これらは、周囲に頼れる人がいない場合や、日々、忙しい生活の中で子育てに追われて余裕がなくなってしまうときなどに発生することが

多いと思います。

子育てに関する悩みは、相談することで気持ちが楽になると思います。こども家庭センターでは、電話でも窓口でも相談を受け付けています。話を聞いてほしい、相談があるというときは、いつでもこども家庭センターに来所・お電話をいただければと思います。

また、周囲の人も不安や異変を感じた場合は、抱え込まず、市の関係機関に相談をお願いします。

子育て支援についての情報は市の公式ホームページや広報いしおか、市公式SNSなどで発信しています。ぜひ、このようなツールも活用ください。

子育てのお悩み、ご相談ください！

岡こども家庭センター TEL 24-1386

